

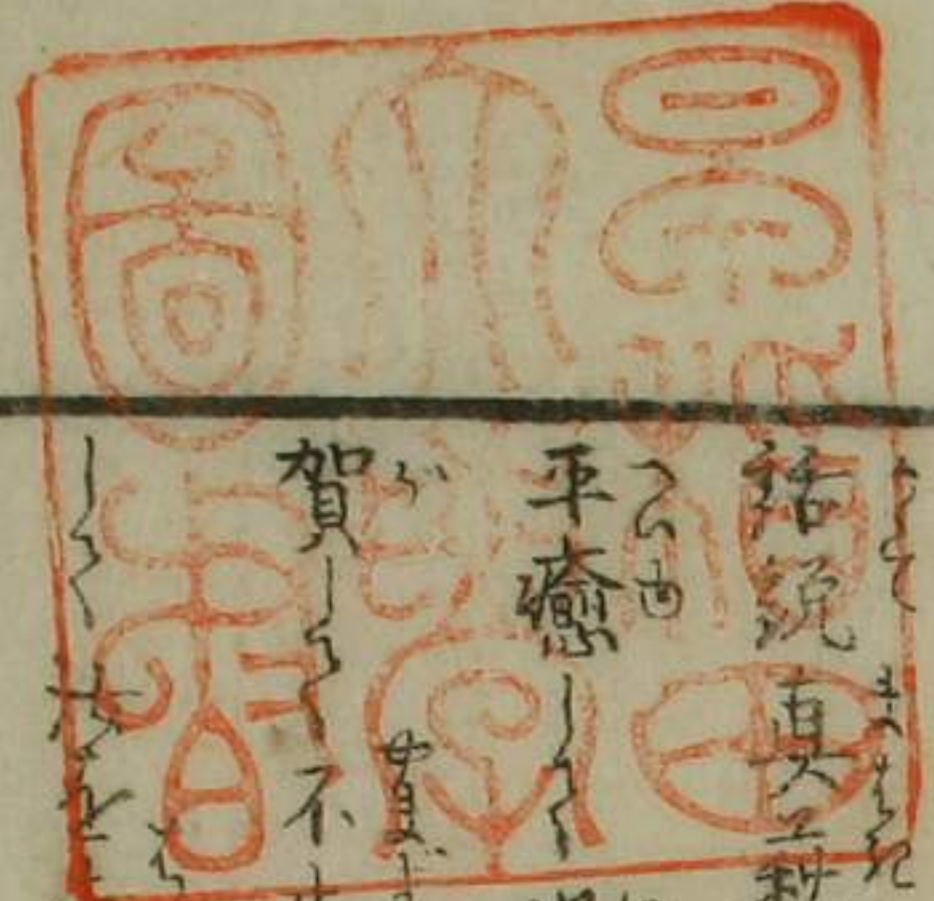
秋葉  
 繪本金石譚  
 後編  
 五

遠  
 980  
 1916



門遠 13  
號 980  
卷 10

本清



秋葉繪本金石鐔後編卷之十  
靈驗

浪連

山田山葉子戲竹篇

豺狼又子面會濱名城條

話鏡真秋香兵衛ホハ金谷ある川越長造が針小到る播大助も患病  
 平癒以前より尚壯健なり居たるゆゑ香兵衛母子大悦び女膝を  
 賀し不止播大助も蘇生乃人小遭し勇悦び我往年絶倭の言を信  
 ずば走れし一妻後悔臍を咬ども及らず且夕再會し過を謝んと成  
 新し甲斐有く今廻遭嬉しよ可憐我一旦乃過失を恐むる心成皆力カを  
 割く飯黍乃道を用ひてとち頼れぬ香兵衛も低頭し其こそ君臣の礼  
 を乱る御留至中不遂電し糸漸奉る小納めを何卒昔日の罪を思免ふ  
 一むり君又の仇祐明二王赤を殊戮の隨逐を許しむりゆとりたる小播大

之助ハ未ダ國變を知られど心訝りて其故を問香兵衛色を正し君ハ未ダ知  
食もど大殿ハ云一の吏也と逝去り夕の國家ハ大伯叔祐明押領し伊沢  
白狀の條一五十一を結りこれを播磨之助昏倒し其の死を悲しむ歎た此上  
ハ速小濱名小赴丸運成天小任く復仇を企んと敦園を香兵衛大守制ト  
短慮不遂功とせしむ必と血氣小逸り其小吏也小渠己小四郡を押領し一  
城を總司上ハ客易小手放下し一が藩中乃諸士普代恩顧の草草あり  
との時乃勢小狭る當時乃人心是逆也頼小成をくす時節を窺ひ祐明  
カ他出を足海し不意を討小如吏ハいれ其小先彼香炉を萬一破却せ  
られも祐明を討得とも御家名断絶とるし死小依て香炉を奪及  
と謀りて勅要小いりんと高儀とる小唐衣が日本ハ吾儕より吏起りて彼

御密使人乃手小渡りて如何ゆりく濱名城申奉公小入電萬  
乃吏を内通し便宜とくし香炉を奪取し進し人此義ハ奈何也と  
云々れ播磨之助喘と手放拍美由卿が面を知者彼藩中亦有しがこれを  
此謀いと良りてこれを極く奸智深死祐明あれを怪忽手放し出さる  
破を引出しとてや貞操を破て香炉を奪返さむ機木の家名  
ハ立層れれ心を責り功を遂けんと練房一々を致小於く衆議是下決  
一王長藏牙茶商人小身を紛装し濱名小因を雨やく諸家小立  
入城内乃動静を探り幸々小祐明奢移小長く普く美婦を需り  
し一風鏡とれむ天の賜と大悦び城内へ入る刀屋塚六とり者小就  
吏を討りて塚六由祐明が心小合小美婦あり勸上人と思ふ殿中ハ幸乃

更よと悦よろこひ其人そのひとを呼よ寄よしちとんふ。十二にじふに分ぶん乃なり國色こくしき有ありて。即すなは刺す此この首うたを祐明すけあきの  
 中なかへ上ありて。即すなはち召よ寄よす。百ひゃく乃なりより其その美貌びようぼうを悦よろこび一いつ議ぎの及およぶ。召よ抱だへ  
 名な成なり玉たま由良ゆらと呼よぶ。茶ちや乃なり回まわの侍女ざむらいと名な置お終つひ小こ巳ねが圍かこ乃なり花はな見み人ひとの心中こころ小こ独ひとり  
 笑わら成なりとわくふ。然しかる小こ一いつ日にち執と奏そうの書侍しよざむらい走はり来きて。祐明すけあきが前まへ小こ平へい伏ふし。唯ただ  
 今いま城門じやうもん小こ人ひと乃なり浪士なうし傳つたえ。君きみ小こ拜まが錫しやく乃なり義ぎを願ねがひ。番ばん卒そつ亦また曲まが更また思おもひ不ふ叶あは  
 昔むかしを言いひし。強つよく願ねがひ。公こうに御ご賢けん慮りよ小こ從したがひ。左ひだり右みぎ乃なり針はりひひりんと  
 演まわ音ねと。祐明すけあき甚たまに。河か浮う浪人なうじん乃なり分ぶん際さ々々。狂くる々々。予よ小こ對面たいめんせん。更またを望のぞむ  
 ハ不ふ敵たから曲者まがものと。小これと對面たいめんせざるも憶おぼせ。小こ似にたり。この何なに許ゆる乃なり更またうあふ。白しろ  
 破やぶへ。身み招まき。小これと指揮しやくばいと。小これと書侍しよざむらい畏おそく。席せきを退まり出でたり。祐明すけあきハ木き乃なり置お置お  
 めの心こころを置お時とき節せつあれ。物もの蔭かげ小こ射人しやうじん捕人とら人ひと乃なり武ぶ士し多たく忍しのむ。色いろ相あ圖ず乃なり扇あふ子こを

投なめ。一いつ齋さい乃なり立た出で。搦捕なつとらう射し取とる。せよと令めいす。其身そのみハ衣え紋もん端はな着き着き飾かざり。  
 近ちか臣しん扈從こじゆを隨したがへ。白書院はくしよえん乃なり立た出で。錦にしん乃なり褥じゆの上のうへ小こむむと座ざす。高たか時とき画え乃なり認たん  
 息いき小こ倚より。頭かぶ魂たまと。刀やいば乃なり就つ寫しやの如ごとく。稍しやう有あり。多たく。歩あり。卒そつ乃なり前まへ後ごと  
 取と囲かこみ。春はる然しか々々。入い来きる。浪士なうし乃なり為な身み乃なり丈ぢやう拔は群ぐん小こ高たかく。色いろ白しろく。眼まなこ光あり。  
 昔むかし此この書しよ乃なり如ごとく。あふ。白しろ小こ袖そで乃なり上のうへ小こ黒羽くろは二ふた重じゆう乃なり小こ袖そでを著き重じゆう。皆みな朱しゆ乃なり長なが  
 劍けん十じゆ文字もんじ乃なり差さこ。相あ貌ぼう一いつ曲きよく者ものと。八はち知ちま。祐明すけあき某なつかか面おもてを借かり。眼まなこ息いき  
 を喘あむ。卿きやうハ先年せんねん内うち見み使つかと成なり。當城たうじやう來きて。二ふた王わう左さ門もん乃なり頃ころ日にち承うけれ。先王せんわう没な後ごハ公こう此  
 浪士なうし乃なり貴余きよの。其その即すなはち。二ふた王わう左さ門もん乃なり頃ころ日にち承うけれ。先王せんわう没な後ごハ公こう此  
 城じやうを預あむ。某なつかが所在そのあを強つよ鑿せん穿せん有あり。必かなら竟ま先年せんねん乃なり罪つとを糾とれ。人ひと科かある  
 べ。名な稱せう出で。心こころ乃なり隨したがへ。刑けい罪ざい小こ所ところせ。小これと怖おそる。色いろ乃なり云い放はなす。ね。祐

明感慨し流石ハニ王左門のりも称名来しと但し汝も同命を死すといふとて  
 臣の命もくも帛物を取来しと左門の投与へ卿其品を見知りやと向左門  
 取上り帛物解て見ゆれん覺ある無鞘の短刀あれども船も懐中より鞘取出  
 一差合しんも祐明の向ハ是ハ先年多賀嶋の疵付し七首ゆく我を父母の遺物  
 たり何故の同命と云ふ祐明満面の笑を合ふ此短刀の就く一條の物結者  
 先く席上へ昇いしと結しれども左門聊も恐れの色なく然る脚免をさかると  
 徐くと歩上るも祐明是を引く閑室の到り主客座定まると後祐明  
 辺臣を召く銀の盥の麗水を盛来しと扱悉く人を拂退しめく左門の向  
 ひ予心小思首あれども汝先指を刺し生血を水中へ絞落しめく左門其  
 心ハ知れども領緒しめく小指を刺し血を盤中へ絞し落せし祐明の門く

指頭を刺し血を絞入るも不測や内血己と寄混じりしつ成盤中の沈みと祐  
 明掌成喘と女果しと我推察しめく卿ハ是我実子なり斯うしつ入る  
 と不審あふし其故を語りし人原汝が母小柴とて我方の奉仕せし侍  
 女なりし我酒具の乗し枕席を交しし幾程なり妊り然も左孕まれし必  
 定胎中なる男子ありん妻を察し出生せし我嗣子とみさんと樂みし重代の  
 此短刀を小柴の授けし出生の子乃守刀のせよとて得させし死せし彼女何ゆ  
 とも不知郎を逐電し曾て行傍知らるる先年卿水中より此短刀を拾し  
 伊織の疵付し即我を抱きし却て伊織を刺殺し短刀を持て飯  
 改めしれん覺るも歩銘扱し卿ハ我子なりと知伊沢丹平とて我腹心の者  
 小命し所在を尋せし又子乃跡をかり國家を譲り人為りしとさるる其伊

次ハ絶て飯ヲ来ざる小。卿自称名来れる。我精神ヲ通せしむこと。元来此  
 縁リこれ也。左エ門且驚た且悦つ座を退下。再拜。扱ハ我年来尋ふ事  
 乃又中々在る。斯もあらず先刺しりの罪礼ヲ罪ハ免し。以後ハ子たる乃  
 道を守り。氷ハ伏し。真を需め。素雪を踐し。箒を抜る。孝を厉し。いん云  
 ぬ。祐明はく。斜なき。以悦。又曰。我方す。乃練を以。當領四郡。と掌。握  
 一且卿を得。老の望既ハ足ぬ。只心頭。わうる。英列ハ死後。赤龍丸の刀。紛失せ  
 一。播大足助。所在ハ分明。あたる。と。されど。刀の有。无ハ。和風。尼を。贖して。向。あ。バ  
 相。あ。り。る。あ。ら。ま。と。播。大。が。行。傷。と。も。兼。て。家。名。相。續。の。為。と。稱。一。私。領。他。領。ハ。觸。る。  
 所在を知。跡。出。る。者。ハ。五。十。金。の。儉。賞。を。与。行。る。と。云。せ。れ。遠。く。々。内。の  
 知る。一。其。時。暗。害。し。卿。ハ。世。成。讓。也。我。ハ。心。長。雨。小。老。を。兼。る。ん。と。う。と。追。我

猶子ありと云。融一置。へ向。諸士と心を合。政勢を補。い。と。命。一。是。より。左。門  
 名を刑部。允。祐。嗣。と。改。め。大。宣。女。を。用。え。り。諸。士。を。賑。へ。り。祐。嗣。を。名。對。面。を  
 々。れ。也。祐。明。ハ。使。小。使。人。ハ。皆。千。秋。を。ぞ。送。り。也。  
 欲得香炉。唐衣。遭。阿。責。條  
 再拜。唐衣ハ。香炉。を。入。寺。返。す。人。と。甲。斐。く。一。祐。明。が。真。向。小。奉。任。し。る。が。う。か  
 品。河。國。ハ。在。る。も。知。れ。れ。を。独。心。を。困。め。る。る。也。主。祐。明。ハ。斯。も。不。知。玉。由。良。の。唐。衣。ハ  
 風。姿。の。美。麗。ある。成。悦。び。事。ハ。純。く。死。口。親。々。る。を。玉。由。良。ハ。在。石。の。日。一。日  
 二。日。と。言。の。が。れ。可。憐。一。時。も。早。く。香。炉。を。得。て。此。憂。苦。を。迹。も。と。一。夜。を。過  
 せ。り。三。秋。を。送。る。心。地。一。々。り。と。光。陰。の。一。々。り。と。春。去。夏。來。成。し。る。不  
 城。中。日。ハ。但。例。の。一。々。り。具。足。武。具。馬。具。ハ。一。々。り。不。更。方。り。密。藏。乃。重。品。竹。物。を。真

殿へ取出く虫干をもち小より。玉由良は此時を過しふか何の時を期まぶら  
 と思惟し其頃長生の薬とて琉球国より渡り来る倒門酒とて銘酒の酒に  
 此酒を宿に飲ひむろ小盃に三度喫むれ門を出る候不待く酔倒ると  
 ぐ倒門の事ありと見且多分滴汗づ用れれ腎を増勢を杜ふ一夜十女以御  
 とて曾延年不老ありむとりを以て。祐明常小買賤するを暗の小あ陶小秘  
 一とりの袖中隠し虫干の間を預りる勤番乃す乃結所へ行贈云々ハ  
 吾俗此節小奉仕去るまで也。あ数乃脚室を拜見せり変たり。里がりの  
 給乃種小ゆふれを忍び小拜見を免し久其乃名戒の教へむらむと  
 媚を造りて火を合くも緘やる欺たれを勤番の書侍も玉由良が美貌  
 と其艶結小心神を湯されて赤點首表立り室留を足とる八周判禁され



唐繪浮牡丹の香煙を  
 盗んとく西原が  
 為小見答らむ

唐きん

卿が頼を無下いざみ争あき受あき捨あき分あき死あき悲あき惶あき人あきのまあき渡あきしとあき。玉由良あきのあき手あきをあき携あき  
りてあき。虫あきのあき回あきへあき誘あきひあき。是あきハ何あき國あきノ所あき玉あき彼あきハ何あき某あきノ真あき迹あきとあき悉あきくあき指あき示あきとあき中あき小あき一段  
高あき所あき也あき。錦あき乃あき敷あき物あきの上あき居あきるあき香あき炉あきをあき指あき。彼あきとあき將あき軍あきトあき拜あき領あきああきけし  
浮あき杜あき丹あきノ香あき炉あきとあき天下あき小あきニあきウあきとあき多あき死あき留あき置あきりあき。先あき王あき乃あき若あき殿あき放あき湯あき小あき侍あきとあき一旦あき人  
手あきハあき估あき渡あきさあきれあき。成あき今あき乃あき殿あき再あきハあき購あき返あきしあきクあきハあき云あき々あきせあきれあき。玉由良あきハあき恥あきをあきとあきく  
心あきせあきれあき。天あき暗あき得あき了あき。さあきふあきとあき思あきひあき。人あき目あきああきれあき。世あきをあき相あきああきひあき。其あき余あき乃あき品あきハあき不あき覺あきハあき見あき果あき  
又あき結あき所あき不あき飯あきてあき青あき土あきハあき礼あき謝あきしあき。御あき身あき乃あき深あき九あき情あきああきくあき。城あきハあき御あき室あき敷あき。拜あき見あきしあきとあきり  
嬉あききあき。是あきハあき編あき許あきがあきくあき吾あき侍あき殿あきトあき頂あき戴あきせあき。名あき酒あきああきれあき。剛あき乃あき亦あき不あき進あきしあきせ  
とあきりあき。袖あきトあきりあき伴あき乃あき酒あき陶あき小あき白あき玉あき乃あき觴あきとあき取あき出あきしあき。よあきふあきれあき。青あき侍あき大あき乃あき小あき抗  
ひあき。是あきハあき何あきトあきりあきのあき賜あきがあき。役あき義あき果あきをあき私あき宅あきハあき飯あきをあきくあき。樂あきとあきいあきハあきんあきとあきくあき。取あき納あき人あきとあきしあき。とあきりあき。

を玉由良あき押あきしあき。ちあき。そあきもあきさあきるあき。吏あき小あきをあきれあき。終あき日あき乃あき御あき勤あき小あきさあきとあきをあき勞あききあき。玉あき乃あき小あき女あき  
ハ飲あきめあき。とあきてあき。自あき陶あきをあきとあきりあき。勸あきめあき。ろあきふあき。とあき。青あき侍あきハあき是あきをあき及あき。倒あき門あき酒あきトあきハあき夢あき也あき。  
不知あき。早あき朝あきトあきりあき。勤あき番あきとあき。怠あき屈あきハあき。折あきトあき。相あき役あき也あき。居あき合あきざあきれあき。玉由良あきガあき。勸あき小あき任あきせ  
一あき盃あき引あき受あきトあき。飲あき試あきとあき。ろあきふあき。其あき耳あき美あきああきるあき。吏あき辯あき言あきるあき。小あき物あきああきれあき。頭あきをあき叩あきたあき。舌あきをあき鳴あき  
しあき。賞あき味あきしあき。つあき。思あき守あき四あき五あき盃あきをあき傾あきけあき。稍あき酩あき酊あきせあき。顔あき色あき也あき。玉由良あきハあき仕あきとあきるあき。ね  
と心あき悦あきひあき。死あき程あき小あき會あき釋あきとあき。座あきをあき立あき物あき蔭あき小あき忍あきびあき。窺あき小あき案あきのあき。とあき。終あき日あきのあき。日あき者あき  
熱あき小あき煮あきまあき。上あき名あきとあき。るあき。倒あき門あき酒あきをあき多あきくあき。喫あきしあき。れあき。れあき。泣あき乃あきとあき。酔あきとあき。兔あき首あき小あきたりあき。つ  
前後あき也あき。不知あき。醉あき卧あきたりあき。玉由良あき比あき。能あきとあき。とあき。見あき定あきめあき。然あきとあき。立あき出あき。とあき。再あき度あき。虫あき乃あきのあき。間あき  
。思あき入あき折あき。ゆあき。ああき。まあき。祐あき明あきガあき。物あき好あきとあき。覺あきしあき。とあき。高あき樓あき乃あき。方あき小あき。竹あき笛あきをあき。調あき。離あき。一あき。日あき。音あき。小あき  
斯あき。とあき。意あき心あき小あき。到あき。とあき。宮あき中あきをあき。見あき。れあき。とあき。其あき。高あき。とあき。三あき。十あき。丈あき。のあき。玉あき。塔あき。小あき。彼あき。珠あき。をあき。危あき。也あき。



香辛成供へ守護神ハ八竜並居り。其外悪臭鱈の口

と延乃王取を縮ひたる。王由良女歩々嗟歎し。折も折ある縮乃唱歌哉

彼海人ハ女ハ吾子を世小立人々命を捨て。和田海乃竜宮城小くけり。若

珠を取得乳乃下茂断。珠を藏く浮出ると吾俗も二世の夫の為。誓言

死とも彼香炉奪返し。再度夫の世とわを進せぬ人可隣故障なく。功

を遂させんと心の裡小天地を祈り。戦く足を踐志あつて忍び寄を高擧小ハ

南無や志度寺の観音善無乃力を合せ賜玉とく。大悲の利劍と

額小當竜宮乃中へ飛入む左右へつと退りたる

と注囉せる早鼓胸ハ早鐘と死は死ぬ難なく香炉の辺り小寄り手をさ

伸り取んとせ小流石女乃心億し。半先あひく傍小在り。器物の蓋を袖小

引掛下ふる玉盃の上小かき落とふ。兵微塵小砕れぬ折ると多不此

時祐明が脇股乃臣露原駒藏諸用有る次乃間へ来り。物音を訝りて

虫于乃間へ入る小侍女王由良が持小香炉小手を掛る。成刃とて曲者と

飛り上るる小机人々引倒せむ。玉由良ハあやと泣沈。免させり。謝頼ハ

とも。駒藏耳小ゆき。提緒を解く。早速小縛め。宙小提く。祐明が面立前へ

走到り。唯今虫于乃間小物音ハ小より。立今く見れば。此女彼処へ忍入。御家乃

重言。浮牡丹乃香炉を偷取とあり。小より。縛上り。泰いと中々小を祐明大

の小訝。其女ハ新参乃侍女玉由良あつ。器物も多る。小女小不用ある。彼香炉

を偷んとし。心得ね。是必。二時乃慾心の。小服下。如何や。女卿何者

小頼。香炉を偷人とハせ。明白小白状せむ。汝々罪を免し得させん

君一點もくも包も隠さず骨を拉ぐ踏向一は罪小刑一ある或はまじり或は怖て  
 向小玉由良漸面を上勢人小頼まきし小侍もどろく偷んあも侍もどろく名  
 ぐる付宝乃乃は後布さふ何心なく彼所忍入さむひ小敷くまぐる中より彼  
 香炉の珠小懸し多しむとと取上り足待んとせりのと更小曲し死小ふとて  
 只思免を願奉り泪ととも小謝りたり祐明嘲笑ひ此頃我種く小心を  
 盡し口説も兎角小事託く辞しひせがうけあね香炉を望み察まると小播  
 方之助々妾とせり唐衣とりの傾城もあつち若さあを猶く憚るてなく其  
 実を告よ先主英列死去の後我假小政敗を預ると垂衰老の身の此重任小  
 不堪播たが所在小知あが傾小石迎へて家督を及さるり思て切なり今ハ  
 何國小任も疾くせよと言を巧小問落せも尚月一各のそく泣沈れれバ

祐明勃然として大なる怒り斯許理害を解せと承伏せざると面悪き中  
 霧原此女を獄小懸死置鉦鼓の頰を耳根ゆく歩鳴し昼夜眠りす現責  
 小し播方之助が所在を白状させしゆよと指揮と駒藏畏るり領掌一強く  
 玉由良を引立詰牽小歩筆と鉦太鼓銅拍子及び種く鳴器を喧くせよ  
 時切小人を替昼夜ろ分別かく責まさせろゆと玉由良由一日二日ハ堪忍び  
 在るるが三日四日小及びハ只心神も湯る如く眠前も睡らんをれを汰覚き  
 小覚まとも鳴器をた立と播方之助殿の所在云よと責問小より果ハ頭脳も碎  
 け毛髪も抜るる思ひ更小生死の竟をさ守困る疲ま風情ハ他乃々  
 目も哀なり然る小一日刑部允祐嗣獄屋小来りて此躰を足下更の手成止り  
 汝亦女時呵責を止よ此女の為体を見ろ今一昼夜責ふを終小若死を

我別つづ小白ちびやう状じやうさすしゆんをしゆん手段しゆんあやしゆん。我ま任まよまとま玉たま由ゆ良らをひま引ひ具ぎとま我ま方かた飯い  
ふふぞ。玉たま由ゆ良らハ亦また如何いかあるある幸さい死し呵か責せ也や逢あ逢あと安やす死し心こゝろなな屠とほ所ところ小こ赴す  
羊ひつののくく。足あしりり重おもくく曳ひきき行ゆ小こ祐すけ嗣し玉たま由ゆ良らがが縛しばをを解とくく一ひと間ま入いりり二ふた人にんの  
侍しやく女にょ戎じやく召めいてて曰い々い々いハハ此こゝろ女にょ數かず日ひのの呵か責せ小こままとと身み神かみ疲つか弱よわ下くだねねををれれをを汝なんぢ小こ兩  
人ふた死し小こ勞らうりり飲いん食じやくをを勸すすめめ思おもふふ小こ眠ねりり小こ命いのち一ひと。又また玉たま由ゆ良ら小こ向むかひひ卿  
をを茲こゝ引ひ越こせせ小こ新あらた小こ呵か責せをを加くわへへんんとと小こああずず死しをを救すくひひ親おや里ざし飯いららししん  
為なああれれをを聊いささもも怖おそいい思おもをを懷いだきき心こゝろ戎じやく安やす人ひと食い小こ付つ且かつ眠ねりりとと云い慰なぐさめめ其  
身みハハ退あたた出で去きぬぬ兩ふた人にん乃すなは侍しやく女にょ玉たま由ゆ良らをを勞らうりり練いりり何なん是これのの飲いん食じやくをを勸すすめめれれも  
玉たま由ゆ良らハハ尚なほもも疑うたた疑うハハ訝いハハ心こゝろ内うち小こあありり中ちゆう。渠かれハハ名なぞぞ強かう盜とうのの長ながああれれ小こ人ひと水  
乃すなは責せをを加くわへへんんとと信まじじくく一ひと六む惜なををけけ欺あたた同どう人ひと巧たくまととあありり母ははや

何なんもも不ふ便べんをを易やすとと白しろ状じやうとと死しをを更さらりり絶たてて言いひひ終つひ小こ呵か  
責せ乃すなは杖つゑのの下した小こ死し。香かう炉ろをを不ふ得え鐘かね愛あいれれ良ら君きみのの道みち進すすみみ支しもも能あたま  
ししととあありり憂うれ若わ胸むね小こ迫せまりり泪なみだ乃すなはとと落おちち。ははやや答こたへへせせ伏ふ沈しんててのの  
居ゐりり小こ侍しやく女にょももりり余あま一ひと徒た小こ守まもりり居ゐるる行いかかりり然しかるる小こ玉たま由ゆ良ら數かず日  
乃すなは現いま責せ小こ身み心こゝろ倦う疲つかままりり兎う首くび小こ泣な伏ふししるる俣まゆゆ我わをを忘わすれれ前まへ後ごもも不ふ知  
寢ねりり。其その夜よのの二ふた更ま乃すなは頂たか祐すけ嗣し思おもひひ入い来き。玉たま由ゆ良らがが熟じやく睡すいせせ体ていををかかてて  
蜜みつ小こ侍しやく女にょをを退ありり外とほ乃すなは方かた小こ向むかひひ一ひと色いろ乃すなは呼よびび子こ苗なえをを吹ふ鳴なるとと小こ傾かたりり二ふた人にん乃すなは小こ賊  
一ひと挺た乃すなは駕かをを昇ありりいいとと出でききりり祐すけ嗣し声こゑをを嘯いそそめめ汝なんぢ小こ此こ女にょをを駕か小こ昇ありり兼ありり  
兼ありり命いのちせせ方かた行ゆ。此こゝろ品しんをを駕かの中ちゆう小こ入い。彼かの家いえ乃すなは門かど辺へ小こ昇ありり捨すて置おきき隱かく家いえ行ゆ。我  
飯いをを待まちとと命いのち一ひと。袖そで中ちゆうトとりり帛ぬい小こ包かくく箱はこ取とりり渡わたしし心こゝろをを責せめめ此こゝろ品しんをを破

損むふ余り小道を急だ女が眠を汰覺しとと只言滅れむ二人乃との  
唯々々々目し玉由良を女が搔抱たて駕へ乗し乗しある忽ち目を  
見しとあやと叫んとも成祐副早く布成以て口成縛り両手成縛り  
小賊目語し疾くと指揮するゆを兩人其意を得件乃帛物成駕の内へ  
押入祐副お辞し何地もなく昇行り

悔先兆二王授首級條

却説金谷ある長藏が許小播太左助主従日々復仇の商議し唐衣が左  
右を待ふ己小去年乃秋奉公出く今年も早夏の終小速くも風の使ども  
なれども主従余り小待し小逆も女の手を守らんより小濱名辺小身成思ひ祐  
明う他出を待し雌雄存亡を時運小任しと己小其心構をわたりる

門辺小一挺の駕を昇捨置りあり志賀藏先是を見はけ何心なく毎葉の間  
より洞ろるる豈計らん裡小唐衣口手共縛せられ注居られ火の焚きた  
忙し技出さる一個の帛物を載れ是を片手小提片手小唐衣を扶け  
家内へ走り入小播太左助香兵衛始め衆人孩然とさる者なく手毎縛を  
解湯水を子へ以抱さるふと唐衣も人を刃々夢小夢人心地小女時忙然  
里小稍育を押鎮めども音傳如何く飯里小名と問小人も其本末を知  
むと只門辺小駕の昇捨有し由を疑も如何ある故やく縛られ送里飯され得  
携りし何物もやと件乃帛物を見せ問われ唐衣成不審けある顔色し  
一條を落しなく繕らうと播太左助帛物を開たると糸をさかた浮牡丹の香  
知るべし再度驚れ惘呆と許たり香兵衛亦傾れ稍沈吟しと日暮り怨敵



二王左門祐明と父子の名称を方せし上六弥悪逆の柄を固む御免小却る唐  
 衣王を助飯し且此重器を贈する吏最心得む若くハ渠餌をすたて鳥を  
 綱とての奸計小あふさうさうと研すつて殺議區くある所小先日より濱名表へ  
 唐表が五日信使人爲行向ひより長藏遠く飯王来り香兵衛小向ハ僕濱名と  
 する飯王の路次ゆく知也乃身丈小承りしむ概本祐明要用有る船鎌倉  
 下ふ意と宿へ觸渡しゆ。此期を延す途中小待受る討取りんと大息吐  
 る言々わむ香兵衛益疑ひ唐衣一件并小香炉を贈り一條を長藏り語  
 せしふ是も亦狐疑を生いおがむ日多ハ敵の練針也知くしとせむ所往  
 の香炉脚手小入い上何をる期いふは女を紛装し街道筋を徘徊し  
 弥祐明が通行虚脱するを再無方便を問ひしと勸むおめを衆人是を

主従俄小僕仇の用意成調(相真秋唐衣狭衣片を宿小おれ心掛  
 とく香炉を守りしり兼り長藏が飯依僧初倉山の柱下小幽ある庵と結  
 る住々わむ其方小足弱と頑死長藏ハ例の茶賣と成り先(立播大之助小三  
 人ハ坂東者乃京洛詣する跡小お紗刀を仕はる竹杖を曳世管竹三深く被た  
 蓮金谷を立り街道を行く小夜中山小さうり所小前路より跣若堂小  
 傳りやと思ひひまの内より其鎗印を刀る小王家乃定紋三階松菱を附き  
 依り尚も研志賀藏を以て是ハ何國乃諸候小在中問しむり小鎗持乃僕  
 濱名の城主概本祐明公鎌倉へ下向有るんと各播上之助主従大り小悦ひ各  
 菅笠搜り拾竹杖乃刀一奪小拔連つて有無をも不言奴隷従卒小切く

まご各周障つゝ須波狼藉者よと強きを三人會釈もなく重手薄手を  
 負せられ益狼狽し持鎧弓袋ハも更なり典をも早捨往及の旅人を押  
 倒一八方を逃失る播磨助ハ奴が捨一鎗取上大伯叔あが又乃仇思ひされしと  
 典ご一不撞とす小羊各と俱小鎗切拂ハ戸を踐破して出るハ祐明あつと  
 是賊首左三門なり香兵衛驚あがう進を倚あふ珍一王左三門先年汝を  
 討世々宿志を果さず願る本意を失し今回と會ハ天命の飯もろ処をんま  
 卒上上とく雌雄を決せよと結寄々ろ強氣の左三門深手も屈せよと完示と  
 ち咲望まふを勝負をかり得せん然らば汝一言の命は更あり更小使  
 とすは我昨年平川地村ある母維根が許す汝小再會一討捨すと思ひ  
 一右手の金瘡の為小働丸自在あらず習得一水術を以て汝女を

一透間あつと劍を能く討んと狙う母維根及ハ其母小柴が自殺の上の  
 懺悔物結伊沢丹平が白状をせよと始二十年来の夢覚ハ其母養母の  
 息有うち各称出く汝が刀下小死不孝の罪を謝せんとハ思ひぬまも祐明  
 一汝主従ハ心術を探り度再度香炉を他家へ渡させ自然棚本家再  
 興の妨小成更かやと思惟一昔時の命を賄ひ伴と濱名ハ到り父子の各  
 称をせしハ又を練く播磨助小家督を及せしハ為ハ香炉を奪取く女  
 小心得させん為なりハも又祐明我を得く弥橋奢慕ハ其長く音成借  
 一鋭も悪心を翻してハ其身をす所詮不能更を待く年月を送る人ハ  
 香炉を奪取く汝小女ハ各称けけ討せんハ不如と思ふ折ハ由新泰の  
 侍女玉由良彼香炉を奪へんハ更露路ハ一呵責小命を断るんとす是ハ

又祐明の推察の如く。播大之助の嬖妾ありんと察し。暗小刀屋琢六を召寄り。出所を探せ玉由良の呵責を救ひ香炉と俱小及し得させし。二人の母の垂魂へ不孝を謝す志あり。其後我も濱名城を思出。小賊原を従者となし。又か名を名称と通行せし。悪人をあつらふ身替となり。播大之助の刃小く。又と汝が刀を受英列伊織の仇を復せん為の命。二路小分るも現世小残る。又と黄泉乃孫一遊し。又母の子たるの道をまろ。汝亦。名家の再興を思ひ。又祐明を狙はん。密小山館の庵室小到。夕和風尼と商議せし。自然其便宜を得。いふ。死まは是のとなり。早く我首級を切。伊織の垂を慰よ。後長搔上。首さし伸し。れ。播大之助主從始。左清門が義心をゆ。感慨。扱ハ唐衣を救ひ香炉を返せ。ハ。心。有。張結。勇気。

互小面を見合。猶豫居。香兵清再。左門小向。亦も悪小強。善の種。今過を改む。上。悪む。死科。魚情。情仇。今。兼。又。仇。復。覚期。口。心。内。左。門。苦。痛。を。助。情。南。无。阿。弥。陀。仏。の。声。共。小。首。前。小。落。小。多。此。時。先。行。長。藏。手。始。と。祝。香。兵。清。長。藏。小。曰。左。門。未。期。小。祐。明。を。討。と。山。館。忍。行。後。室。と。商。議。せ。言。深。死。有。我。亦。主。從。急。山。館。行。人。間。足。下。且。初。倉。山。の。庵。飯。里。人。小。此。一。件。を。語。里。重。吉。左。右。を。待。命。多。小。長。藏。領。緒。人。小。別。を。告。り。来。方。引。香。兵。清。左。門。首。成。物。小。包。心。賀。造。小。持。せ。又。由。主。從。室。を。深。被。死。山。館。を。急。急。彼。賊。僧。念。作。年。真。秋。を。引。路。次。志。賀。藏。小。追。立。後。二。王。左。門。小。回。王。逢。す。



乞食とありては彼処小流落して中此山中の松林の裡小庵ありて臥す  
 たるが物音小目覚寤し潜小薦う下より一五十をくくと見聞し人音の絶る待  
 て這出つ前後を見回し独言世の侍のあはれ小あずき渠ホが山館とす人(行  
 義を祐明小告く及討小さるる若于の賞金を得時宜小依り出世の蔓小取  
 付あり然なりくと自點首立去んとする折しもあれ前面乃木陰より一人の梵  
 論僧顯れ出姪念が行前小立塞るる身をうかき行人とせり小梵論僧早く  
 一脚を上り姪念が肋を踏と蹴むるも強氣の曲者も急所の當身小睥然時  
 倒り其時又一人の羽忽然として出来て倒伏する姪念を恰も小兒の  
 如く提梵論僧と何々點首合束を望てて行去る

復仇主臣閑愁眉條

却説槻木祐明夜ハ妻子祐嗣二王左門を得て悦ハ限なく大小の政勢を渠  
 小委ね己ハ酒宴淫樂小耽レ亦ハ山館の庵ある先主英列乃令室夕和風尼  
 乃国色小迷ハ徒然を訪ふを名として度々行通ハ何卒口説落しハ己が寤  
 覺を慰め兼ハ船竜丸乃所在を探せんと欲と不義の二道小独心を勞  
 小渠小渠ハ子祐嗣浮牡丹の香炉を奪ハ彼玉由良と共小城中を  
 忍ハ出ハ行清ハ寸成ハ追ハ告ハ来ハるハ小と祐明仰天ハ板ハ渠ハ賊ハ心ハ尚ハ止  
 小玉由良といふも渠が妻小く在ハありハれ他家小在ハ不用ハの品如何ハ故  
 小く夫妻ハ合せ偷去ハると大小心を困ハるハ処小忽ハ京都乃畠山ハ行ハり  
 密使到着し將軍家近ハ小宮吉展觀の御催ハ有ハありハむれれを兼ハく  
 其心構ありてこの内意小いとやハ祐明又當惑ハしハ船竜丸の所在ハ明

あつがる小辰観の催し有てハ吋分。此上六夕和風尼小迫り自他も所在を向  
 明りんと思惟し先使者小領掌せし旨回報しと飯りめ俄小奥小乗しと山  
 館(到)至案内もたぐ尼公の居間へ通るんと長袴踐たは間毎くを過りて  
 廊下傳ひ小通るる所小忽ち前面の唐戸きりりと引開槻本播左助白  
 綾乃小袖小白鉢巻りり大小十文字小差こぼし手鎧推り頭り出珍らや  
 大叔父公御身乃悪逆小とつて又を弑せしれ国家を押領せしれ恨乃一鎧受  
 めんと呼りりれを祐明愕然とと大い小驚た昔只の臍子何の程小當所へ  
 来王と我小非礼乃悪言を吐やその英列異病小依り死亡せし自業かんと  
 る我我所為とハ何を證迹小くりや將領地乃義ハ名迹を嗣た者あれを  
 以り室町殿より我小下賜王の所ある小押領せし上を心まきする奇

鑑言と呪付る時雨後の障子引開し身賀嶋香兵衛曰く白裳束中し志賀  
 藏(隨)至顯つと二王が首級を爪がきりつ呼りりるハ奈何や祐明公もが島  
 伊織が男香之助を見志まきつてや御身が多年乃好悪ハ朝(夕)小結里は  
 難し先達と伊次丹平を誘用し其白状中し逆意の條逐一取取し上小御  
 身が落亂しと二王左門先那を悔り浮牡丹の香炉を及し若殿乃御鎧先  
 小く最期の御身が暴悪の條を物たり御身の身替小とて斯首受す  
 たり君小毒薬を勧め刺(刺客)を令り森首を掻せ国家を盗む不義非道  
 我為小又又又清包娘又伊織が怨敵され生おが其肉を喰とも飽らす  
 と虫王家の叔父と云左門乃義死小免し命のハ助まゆり人間悪心を翻し出  
 家入道とて天年を終りて理を責り言辱しをわむ夕和風尼も奥乃方り



大目黒の太夫

播磨之助

祐明

奸悪露頭祐明  
 伏自刃  
 復仇榎木主臣  
 開愁眉



香兵衛

英州

金石譜卷之十

出。疾剥髪。後生善所を願ひ。勸められ。暴悪の祐明耳。入。雪の白髪を空さぬ。逆星の死眼を唾。憎た尻革。出。枝。悔。一。應。莫。大丈夫。何ぞ此欺。臨。降。入。道。命。死。命。死。後。の。世。の。結。漢。を。忘。ま。す。竹。八。焼。も。節。を。失。く。と。と。祐。明。が。最。期。の。身。う。ん。お。た。後。の。世。の。結。草。お。甘。く。廣。言。つ。廊。下。の。欄。干。小。斤。足。踏。け。刀。抜。り。く。敏。腹。小。突。立。十。文。字。小。撥。切。め。今。六。カ。わ。く。と。播。上。之。助。一。刀。抜。放。し。終。小。首。成。と。お。落。し。る。時。小。障。子。の。二。陰。下。り。播。上。之。助。が。面。を。望。む。一。個。の。礫。飛。来。る。お。ど。驚。馬。あ。う。早。く。手。残。り。く。受。留。掌。成。用。く。礫。を。見。る。お。是。双。六。の。白。石。あ。れ。と。再。度。お。驚。馬。た。忙。し。く。自。守。袋。あ。る。白。石。を。取。出。し。競。ぶ。お。即。日。石。あ。り。と。不。審。と。彼。方。に。見。れ。を。捨。て。て。一。人。の。梵。輪。僧。出。る。其。後。小。隨。ひ。唐。衣。真。教。狭。衣。岸。女。も。立。

出。座。小。は。け。く。敬。命。せ。り。梵。輪。僧。播。上。之。助。お。向。ひ。一。度。別。生。し。二。つ。の。白。石。時。節。劍。来。し。く。合。あ。ふ。と。満。足。あ。れ。と。言。は。く。天。蓋。を。脱。人。を。見。れ。を。豈。針。し。ん。是。概。本。英。列。お。り。れ。播。上。之。助。母。子。香。兵。衛。主。従。も。是。ハ。如。何。中。と。許。せ。く。更。小。夢。現。の。多。別。を。あ。し。手。惆。然。と。る。面。色。を。英。列。お。り。と。完。尔。と。咲。ひ。卿。等。が。不。審。理。お。り。予。存。命。し。世。成。忍。び。一。條。組。結。を。せ。せ。お。ん。先。年。妻。賀。嶋。伊。織。死。亡。せ。後。予。家。乃。存。亡。を。危。く。毎。夜。小。独。思。惟。を。凝。し。怖。る。更。能。お。す。小。或。夜。一。人。の。老。翁。勿。心。お。し。予。が。座。前。小。現。れ。予。小。云。々。お。ハ。我。ハ。是。人。間。あ。す。秋。葉。大。摧。現。の。使。し。め。お。小。靈。狐。お。り。借。手。過。ち。在。し。三。尺。坊。乃。怒。小。觸。秋。葉。大。摧。拂。お。れ。を。通。カ。月。在。お。能。と。更。能。お。と。柵。の。お。た。ま。小。彼。窮。作。が。家。小。身。小。奇。祭。娘。の。も。て。徒。小。數。十。歳。を。徃。ら。う。お。窮。作。が。世。と。成。く。家。を。賣。り。け。り。既。小。危。急。の。難。小。及。ぶ。お。見。

捨るふ不刃心公の金子成借渠小子却思人小無夫の罪を買せ呵責不困  
 小公寛仁小より渠を救成得た其此を大天内三尺坊神通を以て  
 早く知覚其思人を海に徳と賞日過を許し召取せふより再度通  
 力を得て推現小事る更を得より是皆公が思慮あらん今公が危を救久  
 為来より其故ハ脚身先年蛇神を驚く渠が落せ霊鉄を据ひ清包  
 小純く叙小作らせ成蛇神深く怒り憤り叔又祐明が魚く狼心あるを幸  
 以精神祐明が肺肝小入益其悪心を杜せ先清包を殺伊織を害せ  
 今亦八公を殺せ人より更急なり早く虚病を称し山館に列後日  
 燈を忌を各々今室始侍女近臣の面を見せさう云くは我尸骨を  
 身替なり祐明小を欺人公の能電光の力を驚く暗思ひ出

て世の動静を究ひるの憫の教示播消く失うは是の依我靈狐息  
 小酬志を感教の夕和風かちるせ以虚病を称し因勢を救又の  
 委ね當館に列後明を忌由暗室の筆をの約を違へて靈狐一個の  
 尸骨を取来て我身替とす審小予成杖出せり其より予はるは女とありて  
 傍者の動静を窺小果く叔又毒藥を用ひ且刺客を令し寐首をうね  
 病者も病者も入せハ原未空に死骨や靈狐が神通力にて殺小生るが如  
 又せ欺たるあれは首級かび尸骨も須臾小自骨とくをさる此由なり然  
 せ後予称深く世を忍び益彼所を徘徊一時其を究る靈狐や影る如  
 く身を守護し萬更を告知とふより播が香兵衛が所在も自覚知覚  
 維根小柴が自殺伊沢が白状二王在衛門が最後のや追其所ふ原公

見せせり。先も真秋賊が為の縛り隠家へ身行まんとき時俄も志賀造  
 を呼覚し救せし由彼靈狐が方便なり。然のちある寺二王が死後汝寺の  
 此節へと急死行し迹の一人の乞食松林より立出。御本が叔父を祖ひ討ん  
 としるす。成覚てや。祐明の斯く緋へ及討ふせ賞金を得をやあんと独言て  
 立去んとす。予も又木之陰小隠ろへ始終を窺ひ出。案が助を蹴倒せ  
 一。靈狐中々公利と有り。形を現し。渠を縛り提子成勸めり。初倉山の庵  
 小到り。下成をり。真秋以下小示し。曰く。此賊僧ハ娘念く。其原ハ窮作  
 が妹賤が子鳥渡作とらひ。者なり。狐となりて江列番場の辺ある瑞徳寺の  
 汝弥と成し。一朝の酒具より破戒し。度々袈衣子を恨み。終小物堂の陰に  
 二王が群れ入種く。兇悪等々追あす。何部屋橋内。妻死。香共傷の

第う横死。駕嶋伍平が金を奪ひ。害せり。皆此者の所為。あれを忌む山館う  
 庵へ曳行斬罪し。数人の亡霊を慰めんと示し。本形を願し。立去り。とて  
 我賊僧を長藏の申せ。婦女子と俱小茲。来り。早叔父ハ自殺のてい  
 今更悔し。及らざれ。む態と差扣し。息絶を待り。と一五二詳小結とされハ  
 衆人雀躍し。靈狐が義を感じ。英列が存命。成且。且悦し。止む。時小香  
 兵清英列が前小低頭し。美又清包二の刀を制作し。か。怒心を生し。一口を  
 秘藏し。木末ハ母維根が末期の物語。ゆ。空食。西人。是こそ。雌竜の刀小い。て  
 帯し。白木鞘を抜取て。呈され。英列半取上。船帯し。た。刀と共。等し。し。く  
 抜放し。競々。感歎し。斯雌雄の劍相合。君臣再會の期熟。せ。故。を。し。と  
 喜悦限り。た。庭の彼方小向ひ。声高。や。小。長藏。繩付。を。疾。由。出。

いと呼りしを。声小應りて川越長藏。庭の綱代戸押開き高平小縛り上  
 へ。姪念を曳立て。庭上小引居。遙下はく平伏と。香兵衛大不悦ひ。袂衣  
 小刀を渡。比く身繕。庭小あり。姪念をまると。睨か。かき。賊僧我。仕  
 を討。瀬。頗る本意を失。小天命。茲小飯。再會。さ。嬉。其罪を  
 ぐ。車裂衣。飽足。我。小乳母。仇。袂衣。為。父の仇  
 且忠漢伍平が仇。めれ。刑罰を。中。宿。尋常の勝負。を。得。せん。い。こ  
 上。雌雄を決。呼。縛を切。解。志。賀。藏。刀。を取。投。小。小。こ  
 姪念。小。通。思。手。を。束。刑。せ。れ。ん。思。惟。一。言。の  
 問答。中。及。小。白。刃。を。抜。死。物。狂。と。切。香。兵。衛。更。と。せ。向  
 合。二。三。小。間。小。刀。小。姪。念。が。右。の。腕。を。切。落

一。及。と。刀。小。左。手。成。小。落。れ。小。の。姪。念。屍。居。小。倒。ま。り。其  
 時。使。衣。も。刀。抜。し。走。り。又。の。仇。あり。ひ。れ。や。と。首。骨。の。お。ち。り。幾  
 刀。と。切。付。る。小。弱。女。子。手。業。り。命。を。断。る。の。深。手。も。負。せ。得。ざ  
 れ。姪。念。小。倒。小。苦。叫。ひ。庭。の。面。を。轉。ひ。回。る。惡。報。の。程。と。心。地。に。香。兵。衛  
 今。白。刃。小。揚。終。小。首。成。討。落。し。差。上。々。英。列。始。め。衆。人。あ。つ。と。感。賞  
 一。あ。香。兵。衛。刀。成。討。納。庭。上。小。低。頭。今。既。小。惡。人。亡。小。宝。器。御。手。小。入。上  
 八。名。心。丸。脚。飯。越。有。賞。罰。を。糾。小。民心。を。安。と。教。命。小。れ。播。下。足。助  
 夕。和。風。元。真。秋。も。此。義。を。結。勸。む。英。列。頭。を。振。予。靈。狐。が。枝。助。小。依。り  
 免。死。厄。災。を。免。る。と。魚。叔。父。を。亡。再。度。國。小。至。人。更。道。小。背。り。理  
 小。自。裁。叔。父。乃。逆。を。追。九。泉。中。罪。を。謝。と。死。あ。れ。も。播。下。足。助。未

香兵衛

十一

因景観  
面乃理  
怪念余  
成漸  
因



怪念



さへ

まへ

金石記



若冠を被りて今日ト四郡を領せしむも猶一治め得や否や最覺束方依て  
 後見ふあふも死せざる身存命く出家得道一々和風尼と俱不此庵  
 小住他多政敗の言悪を見せし。倭吏あむ責給く。この法華經ハ  
 部を修し。院神の怒を宥め叔又祐明が靈魂及び伊織清包維根小紫二王  
 伍平ホが緒靈乃後世佛果を吊ひん。香兵衛播ナを扶助し。飯城一賞を  
 重く。四封を程く。藩中の人心を定め動乱を鎮め。後使者を京師  
 上。細川頼之全成就。叔又祐明急病發。死去せし由。然(且名)迹相續  
 の義を願ひ。然。恩免の御教書を賜は。播ナ之助ハ唐衣を室と。香  
 兵衛ハ狭衣を妻と。各其家を治り其職を守り。君忠を励み下民を撫育  
 せ。將又志賀藏長藏をも武士不取。其忠実の功を表し。殘方方かく教

示。雌雄の力。香兵衛乃香兵衛を播ナ之助不授与。叔戒刀を把し。髪を切  
 拂ひたり。播ナ之助香兵衛も其理不感伏し。再び言及。守志賀藏長藏  
 亦命。祐明姪念がを取扱。王臣演名城ハ入れ。緒士ホ。蘇生の人  
 小會。且驚れ且悦び。旧より。主君と教。傳は。播ナ之助も喜悦。祐  
 明が。抱。女。成。級。逆意。小加。輩。罪。或。刑  
 一。或。追。放。城。中。頓。平。定。上。下。泰。平。を。綱。新。又。未。白。兵。衛  
 京都。上。細川頼之。就。祐明が。病死。の。由。を。披。露。播ナ之助。一度。失。ひ。  
 香兵衛を得。之。飯。何。卒。名。迹。相。續。の。義。恩。免。を。得。御。執。新。願。ひ  
 演。香。頼。之。快。肯。以。君。前。安。堵。の。御。教。書。を  
 賜。香。兵。衛。小。子。且。中。明。春。金。剛。寺。於。内。命。存。諸。候

の雷岳展観ありせらる。間御見々々。内命有。カを携へ上京と云。此より  
 指揮し別小播友助の二書。成授られり。香共清深く悦び思成。舞して舞  
 を皆直小濱名へ馳飯。御教書并頼之が書を呈し。小播友助是  
 を披見し。斜め手欣悦し。箕末衣の業成。冠て士を育民を撫。亦亦  
 小飯。四郡安静。百民鼓腹。業を樂まきり。

雌雄劍化去雌雄竜條

斯く其年也。暮至。應永三年春三月。公方義満公の御物好。金岡寺小緒  
 候の雷岳を集。赤平無敵の大會を催さる。小より。柳本播友助。雌  
 雄の刀を携。上京。御見を。件乃刀を展観。具々。君下。御賞  
 譽有長。重賞。との台命を下され。播友助。面目を絶。御

賜。鮫國小走き。尾の宮の渡の船中。忽。雌雄二口の劍。送ら  
 り。拔出水中へ。起入り。播友助。大の驚。急。水練の者。傘。搜  
 求。人々。聞。ひま。二口の刀。雌雄の白竜と化。風を呼。雲を發。  
 是。御。上天。遙。内。昇。舟。中の輩。惘。或。ひ。彼。よ。の。小形ハ  
 人々。守。かり。行。ね。播友助。大の惜。歎。れ。も。奈何。也。詮。方。ら。い。飯  
 國の後。又。英。列。入。道。小。錫。有。一。顛。末。を。結。り。た。れ。也。英。列。法師。長。く。嘆。息  
 して。曰。昔。陳。乃。張。華。と。人。雷。換。り。博。士。と。俱。小。樓。を。登。り。天文。を。ん。ふ。  
 斗。牛。の。間。小。此。氣。有。星。光。を。侵。ね。是。各。劍。の。精。氣。昇。り。天。小。徹。る。  
 あ。ん。と。雷。換。を。以。其。所。を。探。求。し。む。る。果。し。豫。草。豊。城。乃  
 獄。乃。基。を。掘。り。竜。泉。大。河。二。口。の。劍。を。得。る。是。往。右。の。子。將。莫。耶。の。鍛。ひ。

物とぞ。其後或人右の劍を帶ぐ延平津より川を渡り小劍自然と  
 鞘を抜く水中に入二龍と化し去る。支那枝桑國異小古今時一  
 たり。魚天生の神物久し人間小在し難く化し去の理經へす。呼奇  
 なり。妖多り。嗟歎し。語る。播之助も感慨し。忽ち劍を惜ら  
 心を捨て。賀嶋香兵衛と心を併せ身を修家を齊へ國民を子のく撫  
 育々々小人。自然國富民豊なり。子孫昌榮の基を固め。八等出さる。

波速 柳園種春著

繪 復雉言千丈松

江戸 葛飾 戴斗 西

往時建久の比松井同犯者余兄逸出が復言  
 孫色素と結ぶ。美名とあり。事  
 全部五冊。今文政十亥年の夏新小古卷乃傳  
 籍を解し。五巻も著。か。

繪本金石輝後編 十六大尾

和漢 西洋 書籍 賣捌 處

大阪心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

